

第21回アジア輸出管理セミナーご挨拶

平成26年2月26日（水）

田中良生経済産業省大臣政務官

（はじめに）

アジアの友人、そしてパートナーの皆様、おはようございます。経済産業省大臣政務官の田中良生です。第21回アジア輸出管理セミナーに御出席いただき、ありがとうございます。経済産業省を代表して、心から歓迎を申し上げます。本日から3日間、有意義な議論が行われることを期待しております。セミナーの冒頭に当たり、輸出管理について、私から2つだけ申し上げたいと思います。

（①輸出管理の重要性・目的）

1つ目は、輸出管理の歴史的な重要性とその目的についてです。

輸出管理は、決して新しい政策ではありません。人類の歴史において、先輩方が長く取り組んできた重要な課題です。

皆様、日本で最初に許可証を使った輸出管理が行われたのはいつ頃だと思われるでしょうか。様々な評価はありますが、一説には1404年で、約600年前のこととされています。1404年に、国際的な許可証を使った制度として当時の中国との貿易が管理されることとなりました。中国との間で厳格な貿易管理を行った理由の一つは、当時の海賊対策だったようです。当時の中国との貿易により、文化的にも経済的にも我が国は大きな利益を得ました。日本からは、鉱物や工芸品が輸出されアジアの発展に貢献し、中国からは通貨や生糸が輸入されました。この事実は、600年後の我々に重要な教訓を伝えています。

輸出管理を巡る基本構造は、約600年後の現在もあまり変わっておりません。ここで重要な教訓は、我々の歴史において、適切に貿易を管理できた時期には、経済的に発展し、貿易を管理できなかった時期は、様々な問題が生じてきたという事実です。すなわち、経済発展のためには、安全保障を考慮した適切な貿易管理が必要なのです。



近年、技術移転を伴う直接投資は経済成長においてますます重要となっております。また、産業技術と軍事技術がこれまで以上に不可分となりつつある中で、高度な技術を有する企業は、不適切な取引による企業イメージ悪化のリスクから、コンプライアンスに極めて注意深くなっております。このため、輸出管理制度の構築とその適切な運用は、技術移転を伴う直接投資の重要なインフラとなっており、国際社会におけるウィンーウィンの経済関係の構築を促進するものです。

輸出管理の目的は輸出管理を通じて国際社会の平和と安全を実現し、それぞれの国の経済発展を実現することです。この輸出管理の目的を再確認いただき、それぞれの国の中で貿易管理の思想を共有していただきたいと思います。

(②パートナーシップの重要性)

2つ目は、パートナーシップの重要性です。

大量破壊兵器や高度な通常兵器の脅威は、今現在の危機です。大量破壊兵器に関する品目の不適切な移転が行われた場合は、世界の人々に大きな不幸をもたらします。

昨年12月の国連の調査団の最終報告書によれば、シリアにおいて昨年化学兵器が使用され、子供を含む民間人にも犠牲者が出たとされております。皆様も化学兵器の被害といわれる映像をご覧になったでしょうか。もしまだご覧になってなければ、是非インターネットでご覧になってください。これらの映像は大変ショッキングであり、私も一人の政治家として誠に悔しい気持ちです。どのような理由があっても、このような悲劇はあってはなりません。

我々は、この問題に向き合うことを求められています。これは終わりのない戦いであり、見えない敵との苦しく長い戦いです。

我々は、いわゆる「迂回輸出」に懸念を有しています。貨物だけではなく、技術の迂回輸出も懸念されます。特に技術の輸出が行われた場合、一度流出したら取り返しがつかないこととなるため、インターネットの普及や情報の電子化が進む中で、様々な対応が必要となっております。迂回輸出の防止を含む輸出管理は、どこか1つの国が真剣に取り組んでもその効果は限られています。全ての国が連携し、足並みをそろえて初めて有効な輸出管理となるのです。そのため、私は改めて国際的なパートナーシップを呼びかけます。

私の言うパートナーシップは言葉だけのものではありません。人と人との信頼関係に根ざすものです。

皆様がそれぞれの国に戻られた後、輸出管理行政の中で、大きな課題や障害に直面することは少なくないと思います。むしろ思い通りにならないことの方が多いかと思います。そんなときには、是非ここに集まった友人が世界中で同じ課題を抱え、やはり悩んでいることを思い出してください。そして困った時は我が国の専門家に相談してください。経済産業省としても、世界の友人とのパートナーシップを何よりも重視し、もし相談があれば、できる限り誠実に対応することをお約束します。同時に、我々も、いつも世界のパートナーの皆様から様々なアドバイスをいただいています。

(おわりに)

最後に、このセミナーが、皆様のさらなる専門知識の強化とネットワーキングにつながることを、そしてこのセミナーがより平和で安全な世界に一步でも近づくきっかけになることをお祈りしております。改めてセミナーへの参加に感謝し、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

(以上)

【参考資料】

1. 勘合貿易 （出典：日本百科事典（小学館）等）

室町幕府と中国の明（みん）政府との間で行われた貿易の形態。室町幕府は財政難打開の一法として、3代将軍足利義満のときに明と貿易を始めた。1404年（応永11年）明使は日本国王印と、勘合符という貿易の信符とその台帳とをもたらした。この後は、勘合符を持った船だけが正式に貿易船として明との貿易を行うこととなった。

日本の主な輸入品は銅銭、生糸、絹織物、薬剤などで、輸出品は硫黄、銅、刀剣、武器などであった。貿易の利益は数倍にのぼり、輸入品は唐物として珍重された。

勘合符は、当時「倭寇」と呼ばれた海賊と区別し正式な遣明使船であることを確認する役割を果たしたとされている。

2. シリアでの化学兵器使用

昨年12月12日、シリアの化学兵器使用疑惑を調べた国連の調査団は、これまで確認されている8月の首都ダマスカス郊外での大規模攻撃など、計5カ所で化学兵器が使われたとする最終報告書を発表。報告書によると、複数の攻撃で子供を含む市民も被害に遭ったとされている。同調査報告書では誰が化学兵器を使用したかについては踏み込んでいない。



Syrian activists inspect the bodies of people they say were killed by nerve gas in the Ghouta region, in the Duma neighbourhood of Damascus August 21, 2013.(Reuters / Bassam Khabieh)